

2023.02.12.なぜ一部のクリスチャンは、こんな世間知らずなのか

第二ペテロ 2章 17節から 22節

JD ファラグ牧師

主を褒め称えます。アーメン、アーメン。はい、主よ、その通りです。賛美にあるように、毎日、毎時間、主よ。私たちが一緒に集うこの時間を心から感謝します。主よ、第一礼拝で JD 牧師が仰った通り、私たちは繋がり続ける必要があります。この繋がりが断たれないように助けてください。ですから、主よ、あなたの聖霊が私たちに語りかけて下さる必要があります。主よ、このメッセージは私たちにとって聞き難いかもしれません。ですからあなたが私たちの心に働いて下さる事が、受け入れられる唯一の方法です。今朝、私たちを謙虚にしてくださいませように。あなたが私たちに準備されているものは、良いもので、完璧だからです。イエスの力強い御名において祈ります。アーメン。

アーメン、アーメン。おはようございます。ようこそ。お座りください。来てくださりとてもうれしいです。オンラインでご参加の方も歓迎します。始める前に、少し時間をとって、トルコとシリアの人たちのために祈りましょう。

皆さんもご存知の通り、この地震は大変な被害をもたらし、死者の数は増え続けています。今朝も確認したところ、すでに3万人を超えています。さらに、ある人が言う様に、もっとずっと増える可能性があるようです。それで、この数字を聞くと、単なる統計や数字ではなく、人々です。息子、娘、母親、父親、そして兄弟姉妹、現実の人々です。悲しみと激しい痛みでただ嘆き悲しむ人々が残されています。かつてないほど、彼らはイエスを必要としています。ですから、祈りたいと思います。よろしければご一緒に。天のお父様、このような時に祈れることをあなたに感謝します。主よ、私たちがこのような時に祈れなかったら、何をしたらいいのでしょうか？ ただ祈るだけでなく、トルコの人々やシリアの人々のために具体的に祈ります。主よ、この惨状は想像を絶する恐ろしさです。

主よ、嘆く者、苦しむ者をあなたが聖霊によってあなただけが出来る通り慰めてくださいますように。主よ、トルコとシリアの人々のため祈ります。あなただけがこのことを用いて彼らをあなたの下へ導くことができになります。彼らがあなたを唯一の希望として見ることができますように。

主よ、休みなく活動している人たちのために祈ります。救助活動はもう不可能ですが、あなたは奇跡を起こすことができになり、これまでもたくさんの奇跡を起こされました。ですから主よ、私は、彼らのため超自然的な強さと超自然的な平安を祈りたいです。主よ、あなたは慈悲深くあられます。このことは非常に悪いことですが、あなたは良いお方です。そして、これがどんなに悪いことでも、あなたがどんなに良いお方であるかを変えることはできません。ですから主よ、そうしてくださいませんか？お願いします。イエスの御名において祈ります。アーメン、アーメン。

では、引き続き「第二ペテロ 2章」を節ごとに学んでいきます。今日、御心なら、2章を終えます。また、カポノの祈りに感謝しました。これはのっけから、とても厳しいです。なので、こっそり抜け出したいなら私たちは頭を下げ目を閉じます。もちろん、駐車場係は気付きますよ。今更もう遅すぎてできませんね。可能な方は、どうぞご起立ください。私が読むのについてきてください。ご無理な方は、座ったままでも結構です。使徒ペテロは、偽教師、偽預言者、偽の教え、さらには、このことに関して、偽の信者についての警告の文脈を続けます。そして、17節にあるように、彼は非常に生々しい描写をします。— II

ペテロ 2:17 —

この者たちは水がない泉、突風で吹き払われる霧です。彼らには深い闇が用意されています。

ー II ペテロ 2:18 ー

彼らは、むなしいことを大げさに語り、迷いの中に生きている人々の間から現に逃げ出しつつある人たちを、肉欲と好色によって誘惑しています。

ー II ペテロ 2:19 ー

その人たちに自由を約束しながら、自分自身は滅びの奴隷となっています。人は自分を打ち負かした人の奴隷となるのです。

ー II ペテロ 2:20 ー

「(私たちの)」主であり、救い主であるイエス・キリストを知ることによって世の汚れから逃れたのに、再びそれに巻き込まれて打ち負かされるなら、そのような人たちの終わりの状態は、初めの状態よりもっと悪くなります。

ー II ペテロ 2:21ー

義の道を知っていながら、自分たちに伝えられた聖なる戒めから再び離れるよりは、義の道知らなかったほうがよかったです。

ー II ペテロ 2:22 ー

「犬は自分が吐いた物に戻る」、「豚は身を洗って、また泥の中を転がる」という、ことわざどおりのことが、彼らに起こっているのです。

皆さん、朝食を食べてないことを願います。ー(笑)ー

それでは、祈りましょう。主よ、私たちは今、聖霊が必要です。なぜなら、私たちの前にはかなりの節があって、理解できるよう、聖霊が必要です。理由があってここに記されており、あなたが私たちを守って下さりたいから私たちにその理由を知ってほしいと思っておられるからです。あなたは私たちに警告されたいのです。あなたは私たちを愛し、とても大切に思っておられるので、私たちが注意するよう、ペテロにこれを書く事を導かれました。ですから主よ、それが私たちの祈りです。私たちはあなたの御言葉に心を留めたいです。イエスの御名において祈ります。アーメン。

お座りください。ありがとうございます。今日、私がお話ししたいのは、この終わりの時に生きている私たちに顕著な「世間知らず」についてで、具体的に、こんにち、なぜ、あるクリスチャンたちは、偽教師、偽の教え、また偽信者にさえも、大変世間知らずで騙されやすいのかです。私が話しているのは、ある意味、前置きのかもしれません。どうか聞いて下さい。主にあって若く、まだ成長していない新しい信者のことではありません。よく知っているはずのクリスチャンについてを話しています。でも、彼らはそうではない。彼らはとても信頼します。ある人がやってきて言います。「はい～！私はクリスチャンです。あなたは、「主をほめたたえます！」彼らは、クリスチャンではありません。あなたは騙されています。とても騙されやすいし、世間知らずです。見極める力が必要です。この人は偽者です。あなたはただ信頼して、世間知らずで、また別の前置きのようですけど、私は、意地悪に聞こえたいのじゃありません。それは、今日私たちの前にある聖句の御霊ではありません。このような箇所が聖書にあるのは、神が私たちをとても愛しておられるからです。私たちを愛していなければ、気かけられません。神は、ペテロにこんな厳しいことを書かせるようなことはされなかったでしょう。これは厳しい内容です。今日、テアテラの教会について「聖書預言・アップデート」で見たように、大変必要な叱責があるのです。聖書はすべて神の息吹ですよ？ 時に、私たちを指導、戒め、励ますためです。しかし、時に叱責もあります。正して、向け直して（方向転換）そして守るため（保護）です。この第二ペテロ2章の終わりの箇所もそういう事

例です。感謝な事に、今日の箇所、ペテロは聖霊によって、ある種の雛形、目安、評価基準等を私たちに提供していて、どんな呼び方でもいいんです。私たちに備え、霊を試し、霊を見極めるため、私たちがツールとして活用できるもので、そうすると私たちは、偽教師、偽教義、そして恐らくもっと危険な偽信者に騙されない、惑わされない、ひっかからない。彼らはクリスチャンじゃありません。偽クリスチャンです。9項目あると思います。何かわかる前に、ここから出してあげますよ。－(笑)－ それについては以上です。ここで他の宗教と競ってるんですよ。言っておきますけど。彼らも、日曜日に礼拝してますよ。－(笑)－ はい、主よ。誰かのための言葉ですね。OK。

1つ目は、17節の前半箇所：「彼らの約束は空虚」

ペテロは、この偽教師たちを、絵画的描写で表現しています。「彼らのバケツには、井戸から水を汲んでも何もない。」そこには何もない。お～彼らは、奥が深い印象を受けます。でも、井戸にバケツを入れて、引き上げても何もあります。なぜなら、何もないからです。それは、17節の後半にある2つ目と正に結びついています。「彼らの中身は偽り」約束が空虚だけでなく、その中身も偽りです。約束が空虚だけでなく、その中身も偽りです。水のない井戸のように、雨の降らない雲のようなものだから。こんな風に言います。彼らはフワフワしているだけで中身がない。－(笑)－ どうですか？ 実にいい感じでしょう？ それが、私のメモにあります。かなり考えたのですよ。ピシャピシャ、キラキラ。あなたはここで、喉がカラカラに渴いて、死にそうです。喉が渴いている時ってこうです。「ああ、冷たい水の入ったグラス！！」そして、雲が見える。「よし！さあ、雨よ降れ。雨よ降れ！」でも雨が降らない。中身がありません。偽りです。あなたは偽物の雲です。

「箴言」にもそう書かれています。雨を降らせない雲のようだ。(箴言 25:14)

何もないんです。それが偽教師、偽の教えを見分ける方法です。井戸に水がない。彼らの雲は雨が降らない。よくよく調べてみると、彼らの人生に何を見つけれられますか？ “何がありません” なぜなら、そこには何もないからです。ユダの手紙 12～13節 私たち、いつ学ぶでしょうね。確認しましょう。

第二ペテロは、もうあと1章です。主の御心なら、来週から3章に入ります。それから、「ヨハネの手紙第一、第二、第三」とても短いです。それから「ユダの手紙」は、1章だけ。それから「ヨハネの黙示録」。－ 歓声－ はい、何が起こるかわかりますね？「ユダの手紙」が終わったら、携挙が起こります。－(笑)－ 良いでしょう？ 文句はありませんよ。それ、いただきます。

では、既に進行中の説教に戻ります。「ユダの手紙」を聞いてください。これを設定させてください。私たちの理解を深めるため重要です。「第二ペテロの手紙」は、「ユダの手紙」の6年ほど前に書かれたという説があります。実はユダ/Judaは、聞いてください。彼の名前は実は、ユダス/Judasでした。彼は、ヨセフとマリアの間に生まれたイエスの異父兄弟です。誰がユダス/Judas を読みたいと思います？ 私はその書は読みません。じゃあ、ユダ/Judeです。よし、ユダ/Judeならいいです。彼は、イエスの異父兄弟です。ペテロが最後の手紙「第二ペテロ」を書いてから約6年後、ペテロが言っていたのは、「こういう偽教師がやって来ます。」6年早送りして、ユダが言います。「偽教師たちはここにいます。」これを聞いてください。

－ユダの手紙 1:12－ (口語訳)

彼らは、あなたがたの愛餐に加わるが、それを汚し、無遠慮に宴会に同席して、自分の腹を肥やしている。彼らは、いわば、風に吹きまわされる水なき雲、実らない枯れ果てて、抜き捨てられた秋の木、

－ユダの手紙 1:13－

自分の恥をあわにして出す海の荒波、さまよう星である。彼らには、まっくらなやみが永久に用意されている。

ペテロが、次の 17 節の終わりにそう述べています。「彼らの運命は闇」闇というだけではありません。最も暗い闇です。少しの闇があれば、目の前が見えないほどの闇もあります。それがこの闇です。結論から言うと、こうですが、ペテロはここで、彼らは、新生した信者ではないことを明らかにしています。「深い闇が永遠に用意されている」とは、信者に決して言いません。つまりペテロが、ここで強調しているのは「クリスチャン、親愛なるクリスチャンよ、親愛なる兄弟姉妹よ、彼らは、あなたがたのキリストにある兄弟姉妹ではありません。彼らは救われていません。彼らは、自分のことをクリスチャンだと言うかもしれません。」

「はい、私はクリスチャンです。」あなたはクリスチャンではない。最後にそのことについてお話します。4 目です。特に、これについては、解説する必要があります。その理由は、わかると思います。18 節の最初の部分、

「彼らの自慢は魅力的/訴えかける」

ここでペテロは、彼らには下心や意図があると表現しています。彼らは人気、権力、名声を求め、すべて自分の高ぶりです。これで十分悪くなければ、このような高ぶった自慢は、私たち人間の罪深い本性の欲望に訴えかけます。ですから、彼らは私たちの中に入って来ます。ところでこの機会に、私が第一礼拝で改めて表明し、誓ったことを再度伝えます。皆さんの中には、この教会で比較的新しい方もいらっしゃいます。私たちは、あなたがいることに感激し、あなたを愛し、歓迎したいです。このあなたの教会でどうぞくつろいでください。来て下さり本当に嬉しいです。しかし私は、再表明し誓いたいと思います。この教会の指導者たちはあなたを猛烈に守ります。「ヘブル人への手紙 13:17」にあるように私たちは、あなたの魂に申し開きをするからです。私たちは、監督者として神の群れを守ることで、神に、申し開きせねばなりません。これは、私たちに託された深い特権です。もしバラムが、あるいは第一礼拝で話したテアテラの教会の、イゼベルがここに入って来たら、彼女はさほどいられないでしょう。なぜなら、イゼベルがここにおいて、その霊がクリスチャンを惑わすなら、非常に興味深いことに、叱責はそのクリスチャンに対してではなく、惑わされたことに対してで、彼らは言い訳しますが、実はそれを許した指導者に対してです。

「あなたがその教会において許したのだ。それはよろしくない。あなたが容認したからだ。」

「お～私たちは寛容なんで～す。誰でも受け入れたいんで～す。」え、そうなんですか？ ちょっと確認させてください。あなたは「私たちは寛容です」という旗印のもと、誰かや何かがあなたの家において、あなたの子どもを惑わし、あなたの家族に害を与えることを許しますか？ いいえ、あなたはそうしないでしょう。イエス・キリストの教会ではどれほどでしょう？ ですから、責任は教会の指導者にあります。彼らは難しい決断をせねばなりません。でも、それは正しい決断です。もし誰かが教会において、教会に害を加えたり、脅威を与えたりするなら、私たちは彼らを追い出さねばなりません。私たちは、あなたがたを彼らから守るため彼らを追い出します。パウロが言う通り、壊疽（えそ）や癌（がん）のように広がるからです。あなたがそれを殺さないなら、それがあなたを殺すでしょう。

OK。失礼。話が逸れましたね。では、なぜそんなに魅力的で（訴えかける）のでしょうか？ なぜなら、磁石のように人間の性質、罪の性質、アダムの性質が引き寄せられるからです。引ばられ、引きずられる。ですから、誰かがやってきて、大口を叩く。そして、私たちの罪の性質に訴えかけ、惹かれるものが

あるのです。彼らはそれを知っていますよ。そしてこのことは、18 節の後半、5 つ目の項目と繋がっていて、この2つは関係しているので説明したいと思います。「彼らの標的は弱者」これが理由で、偽教師やカルト教団は、堅固だとわかっている相手には、絶対に手を出しません。自分たちが逃げられないと分かっているからです。では、彼らはどうするのか？ 取りやすい果実を狙います。(簡単に手に入る者)だから彼らは、伝道イベントの駐車場でたむろしているのです。新しい信者がいると、お～彼らは..... そういう人たちを狙います。彼ら(新しい信者)は、大きな的を背中につけています。

「世間知らず。騙されやすい。無邪気。新しい信者。」我々は彼らを手に入れる。そのことをペテロはここで述べていて、実際彼は、この偽教師たちについて、以前にも書きました。彼らは、弱い者、弱者、世間知らず、騙されやすい者を餌食にする。それが彼らの標的、標的層とでもいいでしょうか。それが、彼らが求めて惑わそうとしている人たちです。彼らは、そういうクリスチャンが引っかかるとわかっているからです。ちなみに、間違えてはいけないのは、これは意図的です。そうでないことを願います。彼らは自分たちのしていることが分かっています。彼らは自慢し高ぶっています。彼らには策略があります。彼らには計画があります。「使徒の働き 20 章」の使徒パウロ。3 年間、昼も夜も泣き続けました。彼が去った後、とても愛する群れの中に彼らが入ってくるのを知っていたからです。狼たちは群れを惜しみません。パウロは、自分が去った後、そういう偽教師たちが入ってきて、教会に大きな害を与えることを心に描いたのは想像に難くありません。多大な害をもたらすことを。彼らは脅威で、彼らが狙っているのは騙されやすい、世間知らずの人たちです。使徒パウロが何度も言うだけに、何度でも言いますが、彼らは無知です。彼らは無知でカモにされます。なぜ彼らが標的になるかということ、敵は御言葉を知らないクリスチャンを 1 マイル先から嗅ぎつけられるからです。そして逆に敵は、御言葉を知っているクリスチャンには絶対近づきません。そういう格言、ありますよね。言い換えれば、敵は入ってきて、誰を捕らえられるか知っています。

「この人物、この兄弟、このキリストの姉妹、このクリスチャン、この住所は削除。近寄ってはいけない。実際、我々がこいつを仕留めるとき、奴らが近くにいないのを確認しろ。奴らは、牧羊犬みたいだから。」牧羊犬って知ってますよね？ 牧羊犬は、狼から群れを守ります。牧羊犬がいて、彼らは見張って、こう言います。「お～お前がしようとしている事は分かっている。」こんな感じで、しっかり強力に見張る。

「お前のことはわかってるんだ。よろしくない。私はお前を見ている。お前は、あまり長くはいられないよ。礼拝の終わりまでのように、どこかのタイミングで終わりがある。」

6 つ目、19 節、「彼らの墮落は奴隷」これは非常に興味深いことで、実はグノーシス主義を参照していて、基本的に、物理的な世界と霊的な世界を分離します。ですから、この分離で、それは肉体だけのことになって、霊的にまでいきつきません。ですから、「放縦」が続きます。そう「放縦」とは、大袈裟な言い方ですけど私が行った神学校、墓場に聞こえます。最近そう呼ぶようになりました。-(笑)-

実は.....ここで簡単に説明すると、言い過ぎでなければいいのですが、私が定義し理解する「放縦」はこうです。つまりその単語だけで、その響きだけで、悪いですね？ なぜなら悪いからです。私の見解はこうです。まるで、罪を犯してもいいという許可をもらったようなものです。

放縦=罪を犯す許可。グノーシス主義という偽教義は、約束で、「あ～あなたは罪を犯せませんよ。肉体の一部なんだから。」そこに分離があるから、霊的な説明責任がありません。「だから、どうぞ！どうぞ！」と。皆さん、こういう地域の教会の中に、その属性を持ち込めるかどうか、見てみましょう。誰かが何かを言い、それが神の御言葉に反し、またはもっと悪いことに、神の御言葉に取って代わることを言った

ら、大抵このように聞こえるでしょう。

「神が私に、あんなことやこんなことを見せて下さった。」待つて。神があなたに見せて下さった？？あるいは、「神が私にああだこうだ仰った。」とか。わあ～私は、そんなこと言われたことない。それは（聖書の）どこにある？ 実際、神は、あなたにそうは仰らないし、あなたに示されることもありません。あなたは知らないようですが、神は御言葉の中でそれと全く逆を仰っています。一例だけ挙げます。はい、もちろん。

「結婚前に一緒に住んでも良いと神は仰られました。」本当に？ いいえ、残念ですが、神は決して御言葉と矛盾されません。

「私がこうするのは、神の御心なんだ～！」いいえ、違います。なぜなら、神は決して御言葉に矛盾はあられません。以前、ある運動がありました。もちろん、こういう教義の風は吹いていますよね？ このところ強風に見舞われています。彼らは戻って来ました。そういう風は嫌いです。でも教義と同じで、教義の風ですよ。誰もが、あっちへ行ったりこっちへ来たりと、翻弄される。その効果.....風は見えないけど、風の効果は見えますね？ ヤシの木は、嵐の時、そう、こう曲がって、お辞儀して。いい姿勢ですよ。でも、その風の影響は見えても、その風は見えません。ええ、このような教義の風は、その効果が分かります。「レーマ」という単語で「ロゴス」に取って代わりました。それは私にとってまるでギリシャ語です。

（私には分かりません）実際にギリシャ語だからです。レーマとは、語られた言葉です。ロゴスは、書かれた言葉です。それで...（物音）はい主よ、お語りください。－(笑)－ そこにレーマですよ。はい、主よ。わお～！ すばらしい効果でしょう？ OK。とにかく、何でもいいです。私、何かしましたかね？ わかりません。すばらしい例ですが。「待つて、私には何か聞こえる。」それは主ではありません。そんなの主ではありません。しかし、神があなたの「心」に語りかけられないという意味ではありません。それが、神の書かれた御言葉と一致すれば、それは主です。神の御言葉との一致があります。

では、問題です。彼らの人生を見てみると、こう大口を叩いていますが、「そう、私は恵みの下にいて、全てが正当で、すべてが、、、」因みに、この人たちは聖句をよく引用します。実際彼らは、クリスチャン以上に、聖書を知っている場合もあります。なぜなら、敵はクリスチャンよりも、ずっと聖書を知っているからです。しかし、敵は何も変わっていません。（創世記の）園で、敵は神の御言葉を引用し、それをほんのほんのほんの少～し捻じ曲げています。強調しました。サタンは、イエスが40日40夜の断食の後、荒野で誘惑した時、イエスのところにやってきて、神の御言葉を誤引用しました。イエスはどのように対応され、克服されたのでしょうか。イエスが神性ではなく、人性でそれをなされたことが嬉しくないですか？ なぜなら、もしイエスが神性でされたなら、私たちはこう思うでしょう？

「イエスは神だからじゃん。私にどんな希望がある？」

で、サタンは主を誘惑するために来ます。イエスは、人性でなさいました。私たちも、聖霊に満たされた人として誘惑に抵抗できるよう、人として主が、模範を示されました。誘惑されることは罪ではありません。しかし、イエスはどうかされたのでしょうか？ イエスは、神の御言葉を引用し直されました。サタンが「詩篇91:12」を曲解します。「確かに神は、あなたの足が石に打ち当たらないようにされます。」イエスはこのように仰います。かなり緩い言い換えをお許しくださいね。「残念でした。わたしがそれを書いたんですよ。あなたはそれを曲解しています。」「あなたがたの神である主を試みてはならない。」

（申命記 6:16）

イエスは、霊的な戦いで、私たちにある唯一の攻撃用武器、御霊の剣である神の御言葉を三度引用されま

した。そう、御言葉を使うためには、御言葉を知らなければなりません。持っていないければなりません。備えるために。それが問題です。だから彼らは、クリスチャンを探します。ここで気をつけた方がいいですね。これを言う時、私は顔を上げません。皆さん、理由が分かります。聖書を教会に持って来て下さい。何かというと...なるほど、自分の携帯にあるのですね、結構です。つけたままにしてください。消さないで...御霊の剣を物理的に準備しておくとは何かがあるのです。(シュツ！鞘を抜く音)それを引き抜く。あまり楽しみ過ぎないように。しかし、あなたの「心」の端末機にそれが書いてなければなりません。既に準備しておかねばならないのです。霊的な戦いになってから備えるのでは遅く、こうなります。「どこに書いてる？」もう敵に捕えられています。あなたは準備万端にしておいて、

「違う、違う、違う、違う、それは神ではない。偽りです。これが真理です。それは偽りです。」と。これ(御言葉)が尺度で、基準です。これが雛形です。これに反するなら、誰が悪いと思います？ でも、それが分かるんです。聖書に無知なことが、悲しいことに、この餌食となった多くのクリスチャンを破滅に導きました。さらに悲しいことに、結局、彼らは自由を約束されたのに、奴隷になってしまう。このリストと雛形の残りを見ていきますので、是非、自分自身に問う事をお勧めします。彼らの人生を見て下さい。彼らは勝利の人生を送っていますか？ つまり、あなたは、自分の主人の奴隷になります。そして、彼らの生活が聖なるものでないなら、その人は偽クリスチャンだと断言できます。彼らは、真の信者ではありません。真の教えではありません。良いと思ひ込むのはやめてください。偽りの教えです。ええ、私にとって、これが長年に渡り、役に立っています。もっと早くから知っていればと思うことのひとつです。本当に、良いテスト(判断基準)は、

「それが私をイエスに近づけるのか、それとも、イエスから遠ざけるのか？」

それが私のリトマス試験です。だから、もし誰かが「へ～い！」と声をかけてきたら？ そして、それが私をさらに主から引き離すなら、それは主ではありません。そして逆に、それが私を主に近づけるなら、それは主だとわかります。そう、

「真理はあなたがたを自由にします。」(ヨハネ 8:32)でしょ？

「子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。」(ヨハネ 8:36)

ヨハネはこのように言っています。

「神の命令は重荷とはなりません。」(I ヨハネ 5:3)

重い道りにはなりません。主の召しは、主が可能にされます。神は、あなたができるように御力を与えずして、決してお命じになりません。実際ある意味、命令である方が良いと思うほどです。その命令に従う御力が伴うからです。神は、私たちができないことを、私たちにお命じになられません。さもないと、神が、不従順の当事者になってしまわれるからです。ですから、誰かが私のところにやってきて、私に重い道りを負わせたら、私はそこから歩きださう言います。「ほ～！ほ～！」→地元の人の口癖地元の人が私に重荷を負わせますから。つまり、ほ～！！ ちょっと待って。イエスは仰いました。

「わたしのくびきは負いやしく わたしの荷は軽いからです。」(マタイ 11:30)

「重荷を負っている人は、わたしのもとに来なさい。」(マタイ 11:28)

あなたは自分の行いの重荷に、押しつぶされています。

「わたしのもとに来なさい。あなたの魂を休ませてあげます。わたしのくびきは、...」

くびきというのは、今の時代には理解できないものですが、2匹の動物をくびきでつないで、荷を引っ張っていました。イエスは、仰いました。「わたしと一緒にくびきを負いなさい。わたしのくびきは負い

やすい。なぜか？ わたしが全ての働きをするからです。」

すべての働きを。「いや、自分で自分の重荷を負いなさい。」違います。彼らは、不釣り合いなくびきではないか、不平等なくびきではないか見てください。弱い動物と強い動物なら、その弱い動物を殺します。イエスが言われたのは、「わたしと一緒にくびきをすれば、あなたの重荷は軽くなります。わたしのくびきは負いやしいのです。」

ですから、もし誰かが私に重荷を負わせたら、それは真理でないことが分かります。主でないことが分かります。主の命令は重荷にならないからです。もし誰かが私に重荷を負わせて、「私はもっと祈る必要があるんだ〜。」へえ、本当に？ そういうものですか？ 想像して下さい。あなたは主のもとに行き祈る。

「神様、今、私は祈らなきゃ！」主は、こんな風です。「もういい。気にしないでください。－(笑)－本当に、そんな風なのですか？ あなたは祈らねばならない？ (義務) 祈りたくなるのはどう？ (特権)」想像して下さい。お子さんがあなたのところにこう来て言う。

「僕は、父さんと一緒にデボーションし、一緒に過ごさなきゃいけない！ 早く終わってほしい。」

「あ〜いいよいいよ。そんなのいらぬ。わたしは、あなたに望んでほしいのです。」それが真理です。それが主です。ヤコブ (3:17) は語ります。

「上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もありません。」

彼らの人生の実を見てください。歩みは、話すことと一致していますか？ 聞いてください。私は、は〜今、罪を示されました。では 20 節、皆さん、このことを一緒に考えてほしいのです。ここで一旦、角を曲がるからです。「彼らの知識は無益」また彼らが、主を知らないことがわかります。ここでペテロはこう言います。「彼らは、主の救いの知識に辿り着いたのに、離れてしまうなら、主の知識がある事がさらに悪い。」

例を上げると、ユダ。異父兄弟のユダではなく、別のユダです。イエスを裏切ったイスカリオテのユダです。ええ、彼は主を知っていました。彼には、主の知識がありました。しかし、彼には、主の救いの知識がありませんでした。さて、このことを今日の学びの文脈に戻しましょう。誰かが言います。「ええ、私はクリスチャンです。私は主を知っています。私は主を愛しています。」とまで彼らは言うかもしれません。「ああ、あなたはそうなんですか？」ユダは、きっとそう言ったでしょう。彼は、きっとそう言いましたよ。うわべだけで。私たちの問題は、私たちは、うわべしか見ていないから、霊の見極めに主を頼らねばならないのです。ところで、今日の皆さんは素晴らしく見えます。でも、あなたの心は見えません。そう、人間は外見を見ますが、神は心をご覧になり、ご存知です。そう、彼らには、主の知識はありますが、主の救いの知識はありません。それはペテロが「私たちの主」と言っていることから分かります。彼らの主ではなく。ですからこの単語、この使い方を強調したかったのです。偶然ではありません。意図的です。私たちが私たちの主を知るようには、彼らは”私たちの”主を知りませんから。彼らは、救われる方法において主を知らないの、巻き込まれ、打ち負かされ、故に、初めから、彼らは決して解放されず、救われることもありません。これらは未信者たちです。彼らは新生していません。21 節で、さらにこのことが分かります。どうか私の心の声を聞いてください。

「彼らの決断は撤回できない」

説明します。彼らの心は既に決まっています、運命が決まっています、心は既に頑なです。神は、ご自分を無理強いされません。ですから、神は彼らを彼らが既に決めたことに明け渡されます。これは「ローマ人へ

の手紙1章」です。神は彼らを引き渡されます。

「**神の霊は、人のうちに永久にとどまることはない。**」(創世記 6:3)

ええ、主はなんとか試みて下さり、罪を示され、主は全てをなさり、何も止められません。でも、神がこう仰る時が来ます。

「ここまでです。どうやらあなたは、もう決心しているようですね。」

そして、ペテロが21節で言っているのは、「彼らは義の道を、そもそも知らない方が、あるいは、聞かなかった方がよかったです。それを聞いて知っていながら、その上で背を向けて拒絶しているから。」

そしてその結果、彼らは、より大きな裁きを受けることとなります。皆さん、なぜイエスがたとえ話で教えられたかご存知ですか？ イエスが、既にご自分を拒絶することを予見していたサドカイ派、パリサイ派、律法の教師たち、ユダヤ人たちを守るためでした。それが恵みで、憐みです。

彼らの裁きが大きくなることを望んでおられないので、それを彼らから隠して、たとえ話で教えられたのです。もし彼らが知りながら、その上でイエスを拒めば、その時には、より大きな裁きを受けることとなります。やはり神の憐れみです。イエスは、彼らの決断を既にご存知でした。彼らは心を決めていて、心が頑なで、運命が決まっていることをイエスは既にご存知でした。イエスは、彼らを守られたのです。

「ひどく鞭打たれます。」と仰った事から。(ルカ 12:47)

皆さん分かりますね？ 天国には、より大きな報酬があることを。天国で、こんな風に言う人がいるとは思わないでください。「やられたよ。あっちの人たちは私の屋敷より大きいんだもん。」ひっくり返せば、「私の屋敷を見てよ。あなたのは？ 納屋ですか。へ〜」そんなことありませんからね。でも天国では、いえ、言いすぎましたね。ごめんなさい。しかし、天国ではより大きな報酬が待っています。地獄で、より大きな罰が待っているように。慈悲深い神は、誰も地獄に送ろうと思っておられませんよ。地獄は、人のために造られたものではありません。悪魔と悪霊のために造られました。ある人の言ったことが気に入ってます。とても適切だと思います。以下が神の御心です。

「もし誰かが地獄に行くなら、イエスの死と復活の御体を越えて行く。イエスは、誰も地獄に行かなくていいように、死んで、よみがえられた。誰も滅びることなく、全ての人が悔い改め永遠のいのちに至ることが御心である。」

主は誰にも望まれません。もし誰かが永遠に地獄に行くなら、それは彼らが決心し、選んだのです。繰り返しますが、神はご自分を強いられません。神は、私たち全員に自由意志を与えておられます。ですから彼らの決断です。最初から彼らは、知らない方がよかったとペテロは言います。しかし、彼らは知っているから、彼らは義の道を知り、聞いていて、その上で主を拒むから、より大きな裁きを受けることとなります。では、最後の項目です。22節。ここが私たちが本当に集中せねばならないところです。ペテロは、皆さん好きにならなきゃいけませんよ。「箴言 26:11」を引用します。再度引用します。見たことがありますね？ 犬がこれをするのを見た時、思いませんか？「あの犬は、箴言 26章 11節を読んだことがあるのかな？」これをするんですもん。気持ち悪いですね。それから雌豚、ええ豚です。きれいにして、希望なら口紅を塗っても、また以前の愚かさに戻ってしまうのです。「彼らの生活は再生しない」きれいにして、希望なら口紅を塗っても、また以前の愚かさに戻ってしまうのです。「彼らの生活は再生しない」

「再生しない」はどういう意味ですか？ ええ、立ち直らない事です。分かりますか？ 改心しない。彼らは立ち直りません。彼らは、聖霊による新生がなく聖霊の内住がありません。あなたがキリストの下に来ると、主は聖霊によってあなたに内住されます。今や、あなたの体は聖霊の宮です。そして、あなた

の中の聖霊は、あなたを通して、あなたのために、聖なる人生を生きられます。聖なる霊=聖なる人生
その新生、聖化のプロセスは、内外からなされます。あなたは、誰かが新生したら、わかります。あなたは
は新生しているのがわかります。この話で締めくくります。でも、この比喩は.....生々しいですが、必要
です。豚がいて、先週は、犬を使ったので、犬は使いたくないです。犬を使ったのは先週でしたっけ？
いやいや、2週間前のことですね。犬に理屈は通じません。犬と話をするにはできません。無理です。
犬には理解できません。理屈は通じません。では豚を使いましょう。いいですか？

コーシャ*じゃないのは分かっていますけど、(*ユダヤ教の食事規定に従った食品) ちょっとだけ、豚を
取り上げましょうね？ で、あなたは豚をきれいにします。品評会に出す準備です。だって、そうそう、
あの、豚の、覚えているのが、私は小さな田舎町で育ちました。4-H ですね？

Hands - 役立つ手、腕 Head - 頭脳 Heart - 富む心 Health - 健康

ここ、大丈夫ですか？ 4-H. 品評会のために豚を集め、準備をし、きれいにします。最初見たときは、
こう思って見えています。「ほ～！あの豚が勝てるわけがない。」それから豚をきれいにして、フカフカにす
るんです。匂いだって良い。そして、小さなリボンをつけて、豚を見せるんです。すると、審査員たちが
言います。「ああ、あれはいい豚だなあ。なんときれいな豚なのか。」で、一等賞。それで、「わあ、おめ
でとう！」です。次の瞬間、豚は走り出し、生々しくしたくはありませんが、イメージはつかめると思い
ます。「なぜそんなことをするの？きれいにしたばかりなのに。」お～聖霊の新生がないからです。外側
だけきれいなだけで、内側にはありません。締めくくりに、「誰かが新生しているかどうか、どうやって
分かるのか？」という質問に答えてもよろしいですか？ あ～、たぶんそれって、「どうしてクリスチャ
ンでないと言える？」という事態かもしれません。そう、私たちのお決まりは、あなたがたは

「その実によって、その人が分かります。」(マタイ 12:33 参照)

マンゴーの木なのにマンゴーの実がないなら、おそらくマンゴーの木ではありません。なぜなら根にあ
るものが実に現れるからです。良い木なら、良い実がなります。悪い木なら良い実はず、悪い実がな
ります。ですから、その実によって、彼らを知ることができます。彼らの人生の実を見ればわかるはず
です。では、私が取り上げたいのは、どうしてそうなるのか？です。こういう主張があるからです。

「あなたが心を判断してはいけない。神のみご存知です。あなたが、誰かがクリスチャンかどうか判断で
きない。」

あ、ちょっと待ってください。そう急がずに。そう慌てずに。つまり、あなたが言いたいのは、私が、ク
リスチャンだと言いながら、そうではない人たちに影響されやすく、彼らが私に脅威を与えていると？
神は、あなたに彼らが新生したクリスチャンかどうか見極める目をお与えになると思わないのですか？
ところで「放縦」といえば、その旗印のもと、クリスチャンにどれだけの機会が許可、発行されてきたこ
とでしょうか。最後まで聞いてください。「彼らがクリスチャンでないとはい切れませんよ。」そして私
たちは、彼らの人生に対して言い訳し始めます。何のことを話しているか、皆さん、わかりますね？

私は、名前を言う必要がありますか？ 言いませんよ。私たちは言い訳を始めます。「お～そうか、彼ら
は新しい信者だから。」いいえ、違います。「そういう状況で、あなたも同じようなことをしたことがある
でしょう？」待って、ありませんよ。「あなたは他人を裁けませんよ。」それはイエスが仰った意味ではあ
りません。イエスが仰ったのは、「私たちは良い”判断”ができる。」主は私たちを無防備になさいませ
ん。自分の子どもにそうしますか？ 彼らに脅威を与え、傷つけ、危険にさらす可能性ある者にそうさせま
すか？ いいえ、あなたは子どもに備えさせ、知る必要のある事は何でも与えます。親として、私たちが

いつもしていることです。注意しなさい。付き合う仲間や一緒にいる友人の彼らがあなたに与える影響に。油断は禁物です。OK。1度だけ言います。この御言葉は「箴言 12：1」にあるので。

「愚かになってはいけません。」はい、とても気分がよいです。本当に無知であってはなりません。世間知らずではいけません。そんなに信用しないでください。私たちは油断しています。誰かが言いました。

「私はクリスチャンです。私の聖書を見てください。」「かっこいい。未開封のようですね。いい小道具ですね。いい芝居ですね。あなたの人生の、雨の降らない雲です。水のない泉（井戸）です。読んでいない書物です。あなたの人生の現実性を表わさない。」

神は、私たちが見極める必要なものをお与えになっていないとでも？ 主は間違いなく与えておられます。では「ある人をクリスチャンではないとあなたが発言するのはどうか？」という質問を誰かにされたときは、その質問への答えは、もうひとつ別の質問に関係します。

「あの人がクリスチャンだという発言がどうしてできるのか？」後者の質問への答えが、元の質問の答えになります。さらに、その人がクリスチャンであるかどうか疑問がないはずなら、この質問がされたこと自体が答えです。誰かが生まれたら、その人は間違いなく生まれてきました。同様に、新生する時もそうです。新生した事に間違いありません。もし、ある人が新生したかどうかという疑問があるなら、その答えは「新生していない」です。なぜなら、彼らが新しく生まれ変わっているなら、何の疑問も抱かないからです。子どもの頃のこの歌を覚えていますか？

「あなたが救われ、その事を知っているなら、あなたの人生が必ずそれを示すでしょう。」聞いてください。あなたには分かります。疑問符がある場合、かなりの確率で彼らは新生していません。あなたが彼らを見て「彼らは新生してるの？」これは断言できます。興味深い描写と比較ですけど、もっと良いのがあれば教えてください。私たちの子どもが生まれたとき、私が座ってこうは言わなかった。「本当に生まれたのだろうか。」いいえ、生まれました。ミルクが欲しいと叫びます。新生し、生まれ変わると、神の御言葉の乳を渴望するようになります。あなたが生まれ変わると、成長が始まります。主において這うように歩き始め、それから主と共に歩むようになります。そして、キリストにおいて成熟し、恵みにおいて成長するにつれて、レースを走るようになります。でも、渴望があるはずで。生まれたばかりの子どもに対してこう言う必要はありません。「君には、授乳が必要だよ。」それは決して問題になりません。さて、問題は、「私はクリスチャンですが、神の御言葉に対する欲求がありません」という人たち。彼らは神のものに対する欲求がありません。彼らは問題を起こす以外、神の民と一緒にいたいとは思わない。彼らは、新生していません。ある人が言った通り、彼らには新生した印がないからです。新生した痕跡がありません。□○▲X■○▽X 彼らが新生したなら、ミルクや神の御言葉や命のパンや神の人々や神のものを求め、渴望するでしょう。新しい性質が備わったからです。

「古いものは過ぎ去りました。」(II コリント 5:17 参照)

ですから、ちょっと露骨かもしれませんが、はい、あなたは、誰かが新生しているかどうかわかります。大きな疑問符はないはずです。もし大きな疑問符がつくのであれば、新生していない可能性がかなり高いです。最後にもうひとつ、なんと云えばいいのでしょうか。こう言いましょ。あなたは、言い訳はできません。確かに、責任は指導者である私たちにあります。あなたは責任を免れられません。私たちにできることは限られています。私はこの説教壇から、教え、説教する特権を与えられていて、御言葉に忠実であることしかできません。羊を養い、福音を宣べ伝え、御言葉を、神の全託宣を教える事です。パウロのように、私は言えます。

「私は、だれの血に対しても責任がありません」(使徒 20:26)

すると、あなたの責任です。あなたには見極める力が必要です。誰かがこの教会にやってきて、こんなことをし始めたら、いいですか。あなたが何もしたくないなら、私に教えてください。私がします。マック牧師に知らせてください。レイトゥ牧師に知らせてください。私たちは何をすべきか分かっています。私たちが対処します。はい。私たちはあなたを愛しているからです。私たちはあなたを守ります。

そして、実話なのですが、OK。これが最後の最後です。実話です。これは本土での話です。私たちは、厳しいことをせねばなりませんでした。その尊い信者の体を脅かし、多くの害、問題、分裂、争いを引き起こしている人物を排除しなければなりませんでした。それで私たちは、彼らを排除しました。もちろん、常に反発や反動があります。「あなたたちは愛がない。」と。実は、私たちは愛を注いでいます。私たちは愛ある行動をしました。それを放置して、この教会にイゼベルを容認するのは愛に欠けます。いえ、あれは愛ですよ。そのことはコリントの人々に聞いてください。彼らは、自分たちが愛で受け入れていると思込んでいました。すると、パウロは言います。

「これが愛だと思うのですか？ 愛ではありません。愛とはこれです。」—第一コリント人への手紙 10 章 13 節—

私たちが「愛の章」と呼んでいるこの箇所は、教会の中で公然たる罪を犯しながらも、愛で受け入れ、寛容だと思っていた教会に対する叱責の言葉です。そして、パウロは言います。

「彼を追い出し、サタンに引き渡し、肉を滅ぼさせなさい。」(I コリ 5:5)

「わお～愛はどこにあるの？ それって意地悪です。」いいえ、違います。それが愛です。その人は、正気に戻って悔い改めるからです。そして、彼はそうなります。「第二コリント人への手紙」でその人は戻ってきます。すると彼らは、極端なんです。彼を回復させませんでした。パウロは言わなければなりません。「あなたがた、彼は悔い改めたのだから戻しなさい。」「だって、あなたが追い出せと言ったんでしょう？」「はい。でも彼は悔い改めました。効果がありました。彼を戻しなさい。彼は正気に戻りました。」

(II コリント 2:6~7 参照)

OK。では、それでポイントは？ 私にポイントはありますか？ はい、ポイントはあります。ポイントは、皆さん、今からはあなたがた次第です。いいですか？ これはあなたがたの責任です。誰かがここに来て、あなたがネズミの臭いを感じたら、どうにかした方がいいですよ。もし、あなたがそれについて何も言わないなら、彼らに言わないなら、私たちに注意を喚起する必要があります。なぜなら、ここではそうはいかないからです。ここではそうはいきません。私たちはこの神の群れを守っています。私たちは、神に対して申し開きをします。「ヘブル人への手紙」の著者は、指導者の負担にならないようにと語ります。その一節で説教ができますよ。これは、牧師が全聖書の中で一番好きな一節です。喜んでいなさい。あなたの魂のために、指導者たちは申し開きせねばならないことに気付いていますか？ ついでに言うと、あなたは指導者の負担になっても、あなたに何の得もありませんよ。あなたにとって何の得にもなりません。喜んでいなさい。あなたがそういう人が来るのを見たら、あなたが彼らに「おお！」と手を出す。そういう人たちは、あなたが来ると「おう...」逃げて、別の道に行きます。それはあなたがたの責任です。それはあなたがたの責任です。OK。またこのことで、あなたがたも試されますよ。

カポノ、上がってきてください。ご起立ください。ご忍耐感謝します。さほど悪くないでしょ？ 天のお父様、私は、また、厳しい内容でした。は～ 本土のこの人たちは、ある者(たち)を取り除いた事を私たちに感謝しています。ある者(たち)を取り除く前、彼らがいる限り教会に戻れませんでした。現在、

この人たちは教会に戻れるからです。主よ、この教会があなたの羊にとって安全な牧草地であるよう祈ります。私たちがあなたの群れの忠実な羊飼、牧者でありますように。ここが何にも脅かされず来ることができる安全な場所でありますように。ですから主よ、最後に、霊的な見識が鋭くなり、蛇のように賢く、鳩のように無害でありながら、鋭く、思慮深く、見極められますように。主よ、ありがとうございます。この御言葉箇所感谢您。厳しい分、とても良く、非常に必要です。それは私たち自身への益で守りです。そのことを私たちはあなたに感謝します。イエスの御名において祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7